

月刊  
JMITU

# 寝ごと



2月号

日本金属製造情報通信労働組合大田地域支部  
セガ グループ分会 2025年発行

No.494

# 2026年春闘・夏季一時金要求項目

私達JMITU労働組合は、  
2月18日、セガ及びSLSへ  
2026年春闘・夏季一時金要  
求提出を行いました。

以下要求

## セガ要求

- ・基準内賃金を5万円引き上げること。査定しないこと。
- ・アルバイト、パートタイマーの時給を最低2000円以上にする事。
- ・アルバイト、パートタイマー、派遣・請負社員を本人の希望があれば正社員にすること。
- ・アルバイト、パートタイマーに退職金制度を設けること。
- ・1日実働7時間、週5日制、35時間労働とすること。

- ・希望する者には定年退職を65歳までにすること。

- ・高齢者再雇用における有期契約社員の給与を、定年時の月額基準内賃金の80%で算定し支給すること。希望するものには70歳まで再雇用すること。

- ・リクラブポイントを年間5万円分にする事。アルバイト、パートタイマーにもポイントを付与すること。

- ・事業所の移転・統廃合、会社分割・合併・営業譲渡など企業組織の変更、子会社の設立、海外への生産移転、工場・営業所の進出、新業種の進出・業種転換、資本の移動、企業間提携、廃業、企業倒産にかかわる私的・法的手続きの申立・実行、その他、重要な経

営施策の変更については、労働組合と事前に協議し、同意を得たうえで実行すること。

- ・退職金を、勤続1年につき基準内賃金の2ヶ月分とする事。

- ・家族手当を配偶者3万円、子（出生児から高校卒業まで）2万円とすること。

- ・業務外傷病有給休暇について診断書代の実費を会社負担とすること。

- ・社会保険料の負担割合を労使3対7にすること。

- ・勤続3ヶ月以上の、本人の結婚祝い金を現行5万円から10万円に引き上げること。

- ・本人が結婚するときの結婚休暇は、連続2週間（休日含む）とし、子供が結婚するときは3日（休日を含まず）とすること。

・アルバイト、パートタイマーに社員同様、慶弔休暇を付与すること。

- ・家賃補助について家賃の30%を会社が支給すること。

- ・災害等による自宅待機や早退・遅刻について、正規、非正規にかかわらず賃金を100%保証すること

## 夏季一時金

2026年夏季一時金として、基本給の4カ月分を支給すること。有期契約社員にも正社員同様支給すること。ただし査定を行わないこと。及びパートタイマー、アルバイト従業員にも、夏季一時金を支給すること。

## SLS要求

- ・基準内賃金を5万円引き上げること。査定しないこと。
- ・アルバイト、パートタイマーの時給を最低2000円以上にすること。
- ・アルバイト、パートタイマー派遣・請負社員を本人の希望があれば正社員にすること。
- ・アルバイト、パートタイマーに退職金制度を設けること。
- ・1日実働7時間、週5日制、35時間労働とすること。
- ・希望する者には定年退職を65歳までにすること。
- ・昇格の基準を明確にし、社員が納得できる昇格制度にすること。
- ・人事制度において評価給がテールの上段に達した場合、昇格試験の機会を与えること。
- ・高齢者再雇用における有期契約社員の給与を、定年時の月額基準内賃金の80%で算定し支給すること。希望するものには70歳まで再雇用すること。
- ・リロクラブポイントを年間5万円分にする。アルバイト、パートタイマーにもポイントを付与すること。
- ・事業所の移転・統廃合、会社分割・合併・営業譲渡など企業組織の変更、子会社の設立、海外への生産移転、工場・営業所の進出、新業種の進出・業種転換、資本の移動、企業間提携、廃業、企業倒産にかかわる私的・法的手続きの申立・実行、その他、重要な経営施策の変更については、労働組合と事前に協議し、同意を得たうえで実行すること。
- ・退職金を、勤続1年につき基準内賃金の2ヶ月分とすること。
- ・家族手当を配偶者3万円、子(出生児から高校卒業まで)2万円とすること。
- ・業務外傷病有給休暇を、一般従業員にも現行10日から最高60日(休日除く)を与えること。診断書代の実費を会社負担とすること。
- ・社会保険料の負担割合を労使3対7にすること。
- ・本人が結婚するときの結婚休暇は、連続2週間(休日含む)とし、子供が結婚するときは3日(休日含まず)とすること。
- ・アルバイト、パートタイマーに社員同様、慶弔休暇を付与すること。
- ・家賃補助について家賃の30%を会社が支給すること。
- ・災害等による自宅待機や早退・遅刻について、正規、非正規にかかわらず賃金を100%保証すること
- ・時間有給を取得できるように制度として導入すること。
- ・矢口事業所の建物補修を行うこと。
- ・夏季一時金  
2026年夏季一時金として、賞与資格別基準額を2万円底上げし、係数4.0を支給すること。有期契約社員にも正社員同様支給すること。ただし査定を行わないこと。及びパートタイマー、アルバイト従業員にも、夏季一時金を支給すること。

仙洞田一彦

「もう、生きて行くのが嫌になった」

友人は喫茶店の椅子に腰かけるなり、深く溜息をつく。ボソツと言った。

会社を定年退職して二十年以上経つが、この間何回か会っている。それでも前に会ってから五、六年は経っているかもしれない。年齢はほぼ同じ。

東と西に離れてはいるが、同じ街に住んでいるから、こうして散歩していると顔を合わせることもある。すると、どちらが誘うこともなく近く

夜は出歩かなくなった。

カウンターからコーヒーカップを持って、空いていた席に座った。どちらかというとおしゃべりな友人だから、こちらが会話のネタを探すこともない。聞き手に回ればいいのだ。友人は話を続けた。

「ガンが転移したらしい。前のとき、話したかな。ガンになったんだ。どうやら転移したらしい。明日の精密検査で分かる」

私は聞いたこともあるような、ないような、曖昧な記憶だった。この歳になると目の前の友人だけでなく、ガンにかかった話は他でも良く聞くから、誰がどうだか憶えていないのだ。私はちよつと首を傾げた。友人は背は高くはないが、がっしりした体つきで

柔道か、相撲をやっていたともいえるような体つきだった。そう思ってみれば、少し痩せたように見える。声にも元気がない。

「それに、あの選挙結果でしょう。テレビも新聞も見たくない。人間てのは、なんで、戦争をしたがるのかね」

先週の選挙結果で保守というより好戦的で挑発的な色合いが、私でも危機を感じるほど強くなった。

友人とはかつて同じ労働組合で活動していた。

「世の中の不満が、そちらに誘導されたと言っている人がいたね。不満は解決しないのにね。人気投票のように秀囲いで、票が押し流されたのかなあ」

私が言った。私自身も結果

が理解できなかった。米は上がる、何は上がる。上がらないものはないと、私自身もスーパーで買い物をしていて実感していた。かつての侵略戦争が、国内の不満をばねに始まったようなことを読んだような気がするが、それと同じ状況なのかとも思っていた。

「医療費だって上がるし、ガンなんかやっつけられないよ。ま、好き好んでガンになったわけじゃないけどね。もう、この世と早くおさらばしたいよ」

友人は言って笑った。口は笑いで開いていたが、表情は崩れていなかった。言葉が言葉だったから、さびしく聞かされた。昔、集会でシュプレヒコールをするとき、隣にいたら耳を抑えなくなるほどでか

い声をしていた友人が、おとなしく言う。

あとは子や孫の話で、一時間ばかりいて別れた。帰り道歩きながら、友人らしくないと思った。選挙の結果に、ガンの転移が響いていて、あんな暗い話になったのではないかと思った。

七十年代の終りか八十年代の終りか忘れてしまった。いやもつと前、労働組合のビラをガリ版刷りで作っていたのだから七十年代半ばだったろうか。もうガリ版刷りの時代じゃなかったんじゃないか。過去のことが何時頃なのか。実際は出来事が違う時に起こっていたかもしれないが、同時に起こっていたような気がする。

私が会社の食堂で、翌朝、

労働組合が門前で配るビラを作っていた。組合事務所がなかったから、会社の食堂のテーブルを使っていた。ビラなどの作成作業に、そこを使う

ことは、会社も認めていた。寒い晩で、五十人くらいが入る広さの食堂の隅にある暖房機が音を立てていた。音がでかいだけで暖まらない。それでも二月の夜の寒さでは、うるさいと切ってしまうわけには行かない。動いているだけでした。そこに残業を終えた友人が来た。

私の前のガリ版に乗っている原紙を覗き込んで言った。「何だ、まだ一行、一字も書いてないじゃないか」私がガリを切って、残業を終えて来た友人が印刷をする手はずだったのだ。友人が来

たときには、印刷するばかりになったガリ版が仕上がっているはずだった。

「あいつの事、まだ考えているのか」

友人は言った。私は頭の後ろの方で両手を組み、目だけ友人の方に向けて、ちよっと肯いた。

「考えたって仕方ないじゃないか。俺たちは前へ進むだけだ。困難は承知の上じゃないか。困難は今に始まったわけじゃない。まあ、な、組合三役の一員だったからな。俺もまさか脱退するとは思わなかったよ。しかも春闘、これからっていう時によ」

友人は食堂に響く声で言った。そして、私の腰掛けている椅子の背中部分をドンとたたいて、さらに続けた。

「ほれ、がんばれ。負けるな」

私は頭の後ろの手をほだき、座り直した。ガリ版の鉄筆を取って原紙に向かった

——困難。いまさら何だつて言うんだよ。生きている以上、何が起こるか分からない。今度は私が、友人の背中をドンとたたいて、どやしつけてやらなければならない。

数日後、散歩していたらどこからかでかい声があった。声のする方を見ると、片側三車線の道路の向こう側で友人が手を振っていた。

アレッ。目の前は三途の川か。夢か。まぼろしか。

頬をつねったら痛い。間違いないく道路だ。私も手を挙げて振ってこたえた。でかい声が出ているということは、結果がまずまずだったのかな。